

事業番号	事務事業名		佐伯高等学校の魅力化支援					所管課名		地域振興部中山間地域振興室	所属長名	正木 常貴
	方向性	2	人を育む					係・グループ名		中山間地域振興係		
	重点施策	3	未来を担う人づくり					根拠法令等		廿日市市教育振興基本計画		
	施策方針	2	地域と学校の協働による創造性豊かな子どもの育成					基本事業				
予算科目	会計	01	款	02	項	01	目	11	事業1	事業2	経・臨	予算上の事業名
	一般会計		総務費		総務管理費		コミュニティ振興費		010	55	臨	中山間地域振興事業(佐伯高等学校校分)(政策)

1 事務事業の概要

①事業期間	②事業内容(事業概要を簡潔に記載。期間限定複数年度は全体の事業計画を記載)	③開始したきっかけ(いつ頃、どんな経緯で)
☒ 単年度繰返し ☐ 期間限定複数年度 (年度～ 年度) ☐ 単年度のみ	佐伯高等学校が取り組んでいる地域に根ざした教育活動や部活動の充実などによる自校の魅力化の取組を地域と連携して支援することにより同校の存続を図り、中山間地域の中学生の進学先確保・将来の担い手育成・地域力の維持向上をめざすため、次のような取組を実施している。 ・佐伯高等学校魅力化担当地域支援員の配置 ・佐伯高等学校の魅力発信 ・通学費補助金、下宿費補助金、下宿改修費補助金の交付 ・公営塾の開催 ・「広島県立佐伯高等学校を応援する会」への助成	平成26年に広島県教育委員会が作成した「今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画」で、2年連続して生徒数が80人未満の高校については統廃合の検討を行うことが示された。平成26年度から「佐伯高等学校活性化地域協議会」で取組案等の協議を重ね、支援を開始した。 ※「佐伯高等学校活性化地域協議会」は、平成28年度に「佐伯高等学校を応援する会」に統合された。 ※基本計画(第2期)(令和6年度～令和15年度)で、統廃合の検討の基準が2年連続して新入生徒数が20人未満又は全校生徒数が60人未満に緩和された。

2 事務事業の対象・意図・活動・成果指標

主な活動内容	活動指標(活動の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
佐伯高等学校の魅力発信 公営塾の開催 補助金の交付	→ ア 公営塾の開催回数	回	目標 実績	90 73	90 58	90 68	90 -----	90 -----
	→ イ Facebookでの情報発信回数(佐伯高等学校及び市)	回	目標 実績	40 58	40 52	40 58	40 -----	40 -----
	→ ウ オープンスクール開催回数	回	目標 実績	2 2	2 1	2 1	2 -----	2 -----
対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(対象の規模)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
佐伯高等学校の生徒 中学生	→ ア 佐伯高等学校の生徒数(5月1日現在)	人	見込 実績	80 91	90 85	90 103	90 -----	90 -----
	→ イ オープンスクール参加者数(中学生)	人	見込 実績	70 93	70 71	70 51	70 -----	70 -----
	→ ウ		見込 実績	----- -----	----- -----	----- -----	----- -----	----- -----
意図(対象をどのような状態にしたいのか)	成果指標(意図の達成度)	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
今後の県立高等学校の在り方に係る基本計画(第2期)で小規模校の目指す値とされている「全校生徒数が80名以上」を上回ること。	→ ア 佐伯高等学校の生徒数(5月1日現在)	人	目標 実績	80 91	90 85	90 103	90 -----	90 -----
	→ イ 地元中学校(佐伯中・吉和中)からの進学率(地元中出身生徒数/昨年度地元中学3年生生徒数)	%	目標 実績	35 26	35 14	35 28	35 -----	35 -----
	→ ウ		目標 実績	----- -----	----- -----	----- -----	----- -----	----- -----
結果(結びつく施策の意図は何か)	施策の成果指標	単位	区分	4 年度	5 年度	6 年度	7 年度	8 年度
地域への理解・関心を持つ	→ ア 今住んでいる地域の行事に参加している生徒の割合(児童生徒学習意識等調査結果より)	%	目標 実績	52.0 41.3	53.0 40.9	54.0 36.9	55.0 -----	56.0 -----
	→ イ		目標 実績	----- -----	----- -----	----- -----	----- -----	----- -----

3 事務事業の予算・コスト概要

年度	令和3年度決算	令和4年度決算	令和5年度決算	令和6年度決算	前年度比	令和7年度(予算)
事業費(A) (円)	15,411,850	15,842,652	16,559,292	20,312,339	3,753,047	25,590,000
財源内訳	国庫支出金				0	
	県支出金	191,000	295,000	249,000	295,000	340,000
	市債		14,900,000	13,200,000	11,700,000	10,000,000
	その他特財					0
	一般財源	15,220,850	647,652	3,110,292	8,317,339	5,207,047
業務延べ時間(時間)	2,300	2,300	2,300	2,300	0	
人件費(B) (円)	10,097,000	9,810,000	10,047,000	10,198,000	151,000	0
トータルコスト(A+B)	25,508,850	25,652,652	26,606,292	30,510,339	3,904,047	25,590,000
主な支出項目		令和6年度(決算)		備考		
広島県立佐伯高等学校活性化支援事業補助金		2,220,384 円				
佐伯高等学校下宿費補助金		14,940,000 円				
佐伯高等学校通学費補助金		2,056,300 円				
公営塾学習支援員報酬費等		724,655 円				

①上記の評価結果			②全体総括(振り返り・成果・反省点)・評価結果の根拠																						
A	目的妥当性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り	地域支援員の配置、公営塾の開催、魅力発信、各種補助金の交付など必要な支援を行ったため、令和7年度の入学人数が32名と定員の8割を確保できた。 安定的な下宿生の受入のため、必要に応じて新たな下宿先を確保していく。 中学生を対象とした公営塾を佐伯中学生徒に加えて新たに吉和中学生徒を対象として実施し、手伝いに来てくれる佐伯高等学校の生徒が地元中学生と交流することで、佐伯高等学校への進学のかげづけりとなった。																						
B	有効性	☐ 適切 ☒ 改善の余地有り																							
C	効率性	☒ 適切 ☐ 改善の余地有り																							
D	公平性	☒ 適切 ☐ 見直しの余地有り																							
③今後の事業の方向性(改革改善案)・・・複数選択可			④改革改善案による成果・コストの期待効果																						
☐ 拡充 ☒ 現状維持 今後の改革改善案 ☐ 目的再設定 ☐ 改善 ☐ 休止・廃止 ☐ 完了			<table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <td colspan="2" rowspan="2"></td> <td colspan="3">コスト</td> </tr> <tr> <td>削減</td> <td>維持</td> <td>増加</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">成果</td> <td>向上</td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持</td> <td></td> <td>○</td> <td style="text-align: center;">/</td> </tr> <tr> <td>低下</td> <td></td> <td style="text-align: center;">/</td> <td></td> </tr> </table>				コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	/	低下		/	
		コスト																							
		削減	維持	増加																					
成果	向上																								
	維持		○	/																					
	低下		/																						
⑤改革改善案を実施する上で解決すべき課題																									
高校との連携を強化し、継続して行っていく必要がある。 また、下宿先は、下宿の掘り起こしを行う必要がある。																									